

2010年上半期[1月～6月]コンピュータウイルス届出状況

IPA(独立行政法人情報処理推進機構、理事長：藤江 一正)は、2010年上半期[1月～6月]のコンピュータウイルス届出状況を集計しました。

1.届出件数

2010年上半期(1月～6月)の届出件数は7,480件となりました。下記グラフ(図1)は、IPAが受け付けた半期(6ヶ月)ごとの届出件数の推移を示したものです。

図1で示すように、ここ数年は減少傾向となっていますが、2010年上半期は2009年下半期よりも増加しました。

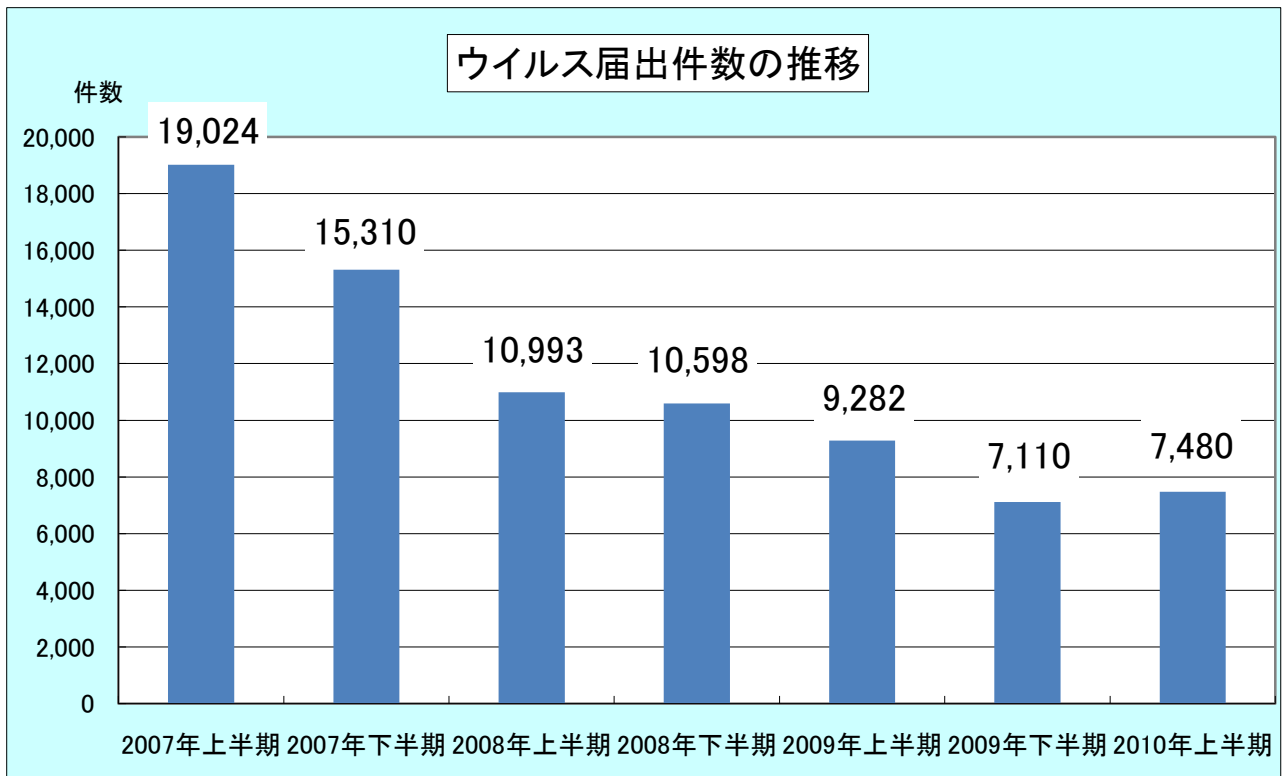


図1：届出件数の推移

2.ウイルス検出数

1年間のウイルス検出数の推移を見ると、届出件数と同様に、減少傾向となっています。この要因としては、最も多数の報告が寄せられているW32/Netskyの検出数が減少していることが挙げられます。

しかし、2010年1月～3月にはW32/Mumu、2010年1月にはW32/Waledacといったウイルスの検出数が増加しました。これらのウイルスは、メールの添付ファイルとして感染を拡大する機能があり、その時期に大量に配信された可能性があります。

W32/Netskyのように、継続して蔓延しているウイルス以外にも、新種や亜種のウイルスが出現し、大量に届く可能性があります。メールの添付ファイルには、今後も注意する必要があります。

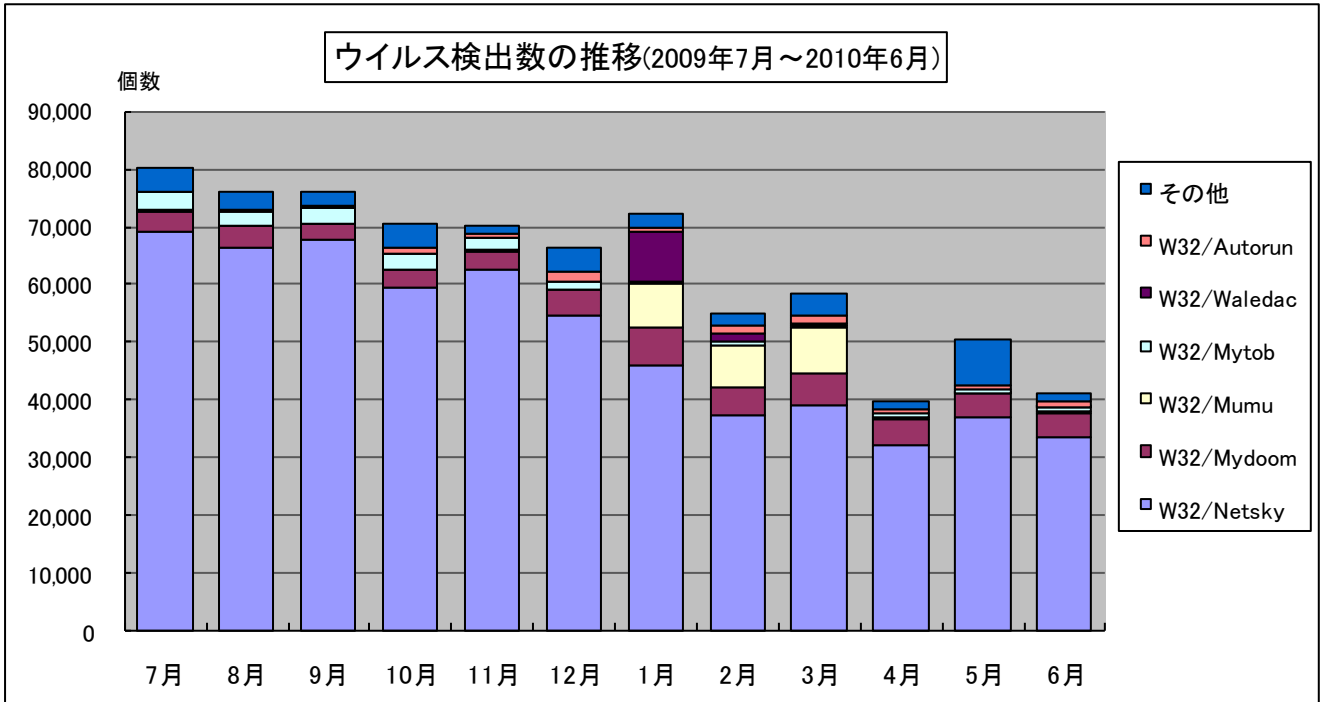


図 2：ウイルス検出数の推移

3.ウイルス別届出件数

IPAに届けられたウイルス別届出件数の推移を見ると、継続してW32/Netskyの届出件数が多い状況です。その中で、2010年1月～3月にかけてUSBメモリ経由で感染を拡大するW32/Autorunの届出が増加しました。利便性が高いUSBメモリにおいても、ウイルスが潜んでいる危険性があることについて認識するようにしてください。

これらのウイルスによる感染被害に遭わないよう、修正プログラムの適用、セキュリティ対策ソフトの活用、添付ファイルの取り扱いに注意するとともに、USBメモリにおけるセキュリティ対策も日頃から実施するようにしてください。

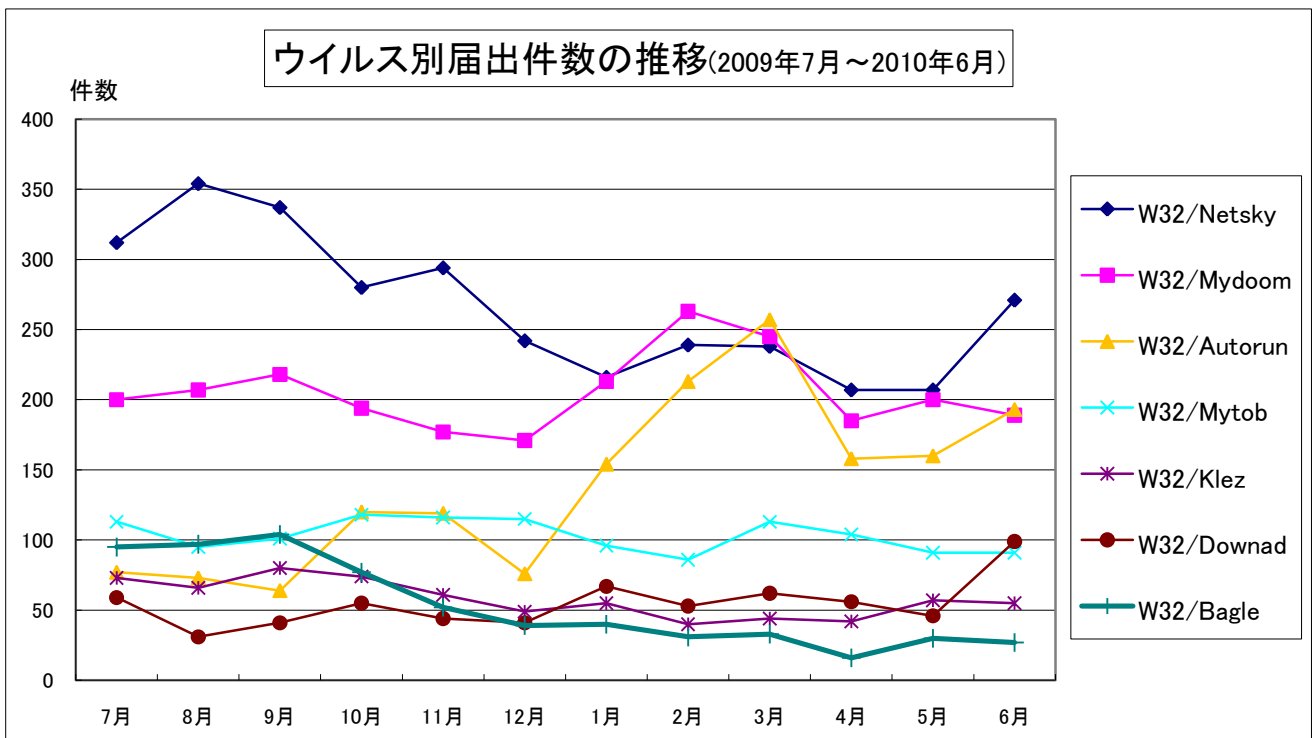


図 3：ウイルス別届出件数の推移

■お問い合わせ先

IPA セキュリティセンター 花村／加賀谷／大浦

Tel:03-5978-7527 Fax:03-5978-7518 E-mail:isec-info@ipa.go.jp